

議 事 録

会議名	2023年度定時常任幹事会		
No.	常任幹事会-20230930	議事録作成者	根本 学
開催日時	2023年9月30日(土) 13時30分～14時30分	開催場所	東京学芸大学附属小金井 中学校1年A組教室
出席者	11期：伊東和子、富田靱彦 15期：荒井耕一郎、岡林正和 16期：川上純二 17期：大久保恒夫 18期：関俊夫、中久保慎一、中谷和夫、早川洋 20期：川田紀雄 23期：石井健介 24期：柳谷一郎 25期：鴨下隆一、神田薫、高木繁行、高木純子 27期：富士森みつ 30期：根本学 31期：保坂健二 65期：蓮池遼太郎		
会議の目的	決議事項 第1号議案 第13期(2022年4月1日～2023年3月31日) 計算書類承認の件 第2号議案 第14期(2023年4月1日～2024年3月31日) 予算書類承認の件 報告事項 第13期(2022年4月1日～2023年3月31日) 事業報告 第14期(2023年4月1日～2024年3月31日) 事業計画 第13期(2022年4月1日～2023年3月31日) 監査報告		

内容

定刻に川上常任幹事会副議長により2023年度定時常任幹事会の開催が宣言され、事務局より常任幹事133名のうち出席者21名、議決権行使書提出者61名、計82名の出席により、この常任幹事会が成立していることが報告された。続いて議事録作成を根本副理事長が担当することが承認された。

【決議事項】

■第1号議案 第13期(2022年4月1日～2023年3月31日) 計算書類承認の件

副理事長より、添付資料④「収支計算書」、⑤「正味財産増減計算書」、⑥「貸借対照表」に沿って大要以下のとおり説明がなされた。

(1) 収支計算書【資料④】について

①収入の主なものは「寄付金」である。

- ・「2022年度卒業生からの同窓会費」は請求書発行の遅滞により入金が年度内に間に合わなかった。
- ・卒業生138名全員が同窓会に入会し、2023年4月28日に同窓会費1,380,000円が入金された。

②支出の主なものは「若竹会寄付」「卒業生記念品費」「常任幹事会開催費」「ホームページ保守費」「会報制作費」「事務局運営費」である。

③実績の内訳は以下のとおりである。

- ・「寄附金」収入は818,915円で予算を上回った。
- ・「常任幹事会開催費」は主に常任幹事会資料の印刷費と発送費である。
- ・「ホームページ保守費」の内訳は保守委託先(株)VENZIへの委託費(月額16,500円)とサーバー代49,886円である。
- ・ホームページ改修作業は行わず「ホームページ改修費」は発生しなかった。
- ・「会報制作費」は会報4,350部の印刷費と送付先3,785件への郵送料である。
- ・「事務局運営費」の内訳は法人住民税、登記費用、郵送料、振込手数料、「全国国立大学附属学校全国同窓会」参加費、文房具費等である。

(2) 正味財産増減計算書【資料⑤】について

基本的に収支計算書からの転記である。

(3) 貸借対照表【資料⑥】について

65周年記念DVD・CDセット(残部数105)と70周年記念誌・DVDセット(残部数165)を貯蔵品として計上している。

以上の説明の後、中久保監事より監査報告があり、計算書類は適正であり法令及び定款に従い、同窓会の状況を正しく示している旨が報告され、続いて議長が本議案の賛否を議場に諮ったところ、全会一致で承認された。

■第2号議案 第14期(2023年4月1日～2024年3月31日)予算書類承認の件

関副理事長より、添付資料⑦「収支予算書」に沿って大要以下のとおり説明がなされた。

(1) 収入は「今年度卒業生からの同窓会費」「懇親会参加費」「寄付金」である。

- ・「同窓会費」は昨期分1,380,000円と当期分見込み1,400,000円を合わせて計上している。
- ・「懇親会参加費」は会費4,000円で参加者を40名として160,000円を計上している。
- ・「寄附金」は昨期予算と同額の600,000円とした。

(2) 支出は「若竹会寄付金」「卒業記念品費」「常任幹事会開催費」「懇親会費用」「ホームページ保守費」「ホームページ改修費」「会報制作費」「会議費」「事務局運営費」である。

- ・「若竹会寄付金」は昨期予算と同額の300,000円とした。
- ・「懇親会費用」は収入予算と同額の160,000円とした。
- ・「ホームページ保守費」「ホームページ保守費」は昨期予算と同額とした。
- ・「会報制作費」は昨年度卒業生等の送付先増加を見込み50,000円増額した。
- ・「会議費」はコロナ禍前の実績と同程度に増額した。
- ・「事務局運営費」は登記費用が発生しないため減額した。

以上の説明の後、議長が本議案の賛否を議場に諮ったところ、全会一致で承認された。

【報告事項】

■第13期事業報告

関副理事長より、第13期事業報告について、添付資料⑧「第13期事業報告」に沿って報告がなされた。

■第14期事業計画

荒井理事長より、第14期事業計画について、添付資料⑨「第14期事業計画」に沿って大要以下のとおり報告がなされた。

(1) 母校後援活動

- ・母校の教育後援会「若竹会」に15期荒井、25期高木、30期根本を理事として派遣している。一昨年に発足した有志による「若竹会を考える会」にも同窓会派遣理事が積極的に参画し、在校生保護者とともに課題解決策を模索しており、これらを継続する。
- ・毎年3月初めの、荒井理事長による卒業生への同窓会からの記念品(印鑑)贈呈の際に、同窓会会報を配布し同窓会活動を紹介しており、これを継続する。
- ・荒井理事長は、学校評議員4名の一員として校長から委嘱を受け学校運営に提言を行っており、これを継続する。
- ・2021年7月の同窓会からの依頼を受け坂口校長が尽力した結果、2022年3月に寄附者が税制優遇を受けられる「東京学芸大学基金」を経由した傘下の附属学校への寄附ルートが実現した。国立大学が独立行

政法人化された 2004 年度以降の東京学芸大学への運営交付金減少の影響で厳しい財政状況にある母校を支援するため、このルート通じた寄附を同窓生に呼び掛けるほか、「体育館への冷房設置」「エレベータ設置」など具体的な目標を設定した寄附募集も行っていく。

(2) 会員親睦活動企画実行

- ・来年度も母校見学会および恩師の先生方を交えた懇親会を実施する。

(3) ホームページ運営

- ・引き続きホームページの運営強化、同窓生への広報活動強化に努める。

(4) 会報作成

- ・同窓会会報は第 1 期から第 73 期まで約 3,800 人の同窓生、140 人の在校生、80 人の恩師ならびに現役の先生方宛に合計約 4,000 部強を発行している。同窓生同士、同窓生と恩師、同窓生と母校の絆を深めるべく、内容の充実と配布先の拡充を図っていく。

(5) 会員名簿の充実

- ・2003 年 5 月の個人情報保護法施行以降、同窓生の連絡先の補足が困難な状況が続いているが、引き続き充実に努める。

(6) 常任幹事の裾野拡大策策定と実施

- ・常任幹事空席の期は 2018 年 6 月の 28 から 2022 年 4 月には 19 に減少した。引き続き常任幹事の確保に努力していく。

【意見交換】

議案審議終了後、「他の東京学芸大学附属学校の同窓会との交流」「理事会議事内容の常任幹事への開示」「E メールアドレス等の会員連絡先の共有」「Facebook による情報共有」等について意見交換が行われた。

以上をもって本常任幹事会における報告及び全議案の審議を終了したので、議長は 14 時 30 分閉会を宣言した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするために、本議事録を作成した。

以上